

下関市立大学広報



海峡の英知。未来へそして世界へ。

公立大学法人

下関市立大学

Shimonoseki City University

2015年11月1日 第77号

発行：下関市立大学広報委員会

〒751-8510 下関市大学町2-1-1

TEL. 083-252-0288

FAX. 083-252-8099

<http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/>



オープンキャンパス

オープンキャンパス実施報告

教授 西田 光一
(入試委員会委員長)

8月8日(土)、9日(日)とオープンキャンパスが実施された。2日間で総計908名が参加し、昨年度に引き続き、過去最高の参加者数を更新した。2日連続の開催は今回が初めてであり、学科案内を3学科連続で3コマ、縦に並べるプログラムも初めてのものだった。当日は放送部の進行のもと、吉津学長、中嶋学部長、入試委員長、村田キャリア委員長、学友会より学生の嶋本さんによる全体説明に続き、加来、藪内、桐原教員による各学科案内、中川真太郎、中川圭輔、飯塚、川野、叶堂教員による模擬授業が行われた。午後は、白川、馬、サリバン教員による語学体験と吉武特任教員による地域研究活動の紹介に続き、道盛教員による小論文講座が開かれ、多くの参加者が熱心にノートをとっていた。連日、暑いなか、熱心に協力していただいた教職員と在学生のみなさんのおかげで、例年とは違う流れにもかかわらず、無事に終えることができた。この場をお借りしてお礼申し上げます。

最後に、当日の吉津学長の挨拶の一節を引用したい。大きな大学ではできないことだが、小さな大学では大学全体の中で自分のポジションと自分が果たす役割がよく分かる。オープンキャンパスの各参加者に、このメッセージが本学で実現することを期待したい。

オープンキャンパスに参加して

生協学生委員会委員長 国際商学科2年 吉村 航太
(大分県立大分雄城台高等学校出身)

私たち生協学生委員会は、毎年大学が主催するオープンキャンパスに参加し、高校生や保護者の方に大学の良さを知ってもらうことや、受験に対する不安を少しでも解消できるような企画の準備・運営をしています。今年もオープンキャンパスにて、学内ツアー、学生ブース、生徒向け・保護者向け説明会を行いました。

学内ツアーでは、サークル見学、大学の教授と直に話をする体験や、大学生と話しながら教室施設などの見学を行い、高校生たちはとても楽しそうな表情をしていました。学生ブースでは高校生のお悩み相談をベースに取り組んだため、話が終わった際に安堵の顔を浮かべる高校生や、明るく楽しそうに大学生と話をする姿も見られました。また、生徒向け・保護者向け説明会では説明会が終わった際にアンケートを記入していただくのですが、こちらの結果も大変好評でした。どちらの説明会も学生目線で行っていることが注目されました。お越しいただいた皆様の顔を見る限り、オープンキャンパスで高校生、保護者の方の受験や大学に対しての不安が少しでも解消できたと考えております。オープンキャンパスは大成功でした。

来年からこの下関市立大学で、一緒に素敵な大学生活を送れることを期待しています。



就職活動

就職状況と就職活動について

教授 村田 和博
(キャリア委員会委員長)

2014年度の本学卒業生の就職率は98.4%でした。この就職率は全国の経済系の大学の中で第8位であり、本学の就職率はかなり高いことがわかります。例年は25%程度だった金融機関への就職率は、2014年度卒業生では30.3%へとさらに上がり、本学は金融機関への就職に高い実績を持っています。

本学キャリアセンターでは、多様な資格講座の開講、体系的なキャリア教育、就職ガイダンスなど、きめ細かな就活支援を行っています。また、国内だけでなく、海外(シンガポール、中国(青島)、韓国(釜山))でもインターンシップを実施しています。学生の皆さんは、こうした就職支援活動を十分に活用して、在学中に自らの就職に必要な基礎能力を高めてください。

就職活動をするにあたって、まずは、自分の強みをしっかりと理解し、どの業種や仕事であればその強みが生かせるのかを考えてみましょう。次に、選考から漏れたときにくじけないことも大切です。前向きに、笑顔で忘れずに、就職活動に臨んでほしいと思います。



就職活動スタート講座

山口フィナンシャルグループ内定

公共マネジメント学科4年 山田 真理子
(山口県立下関南高等学校出身)

就職活動の時期が変わることがとても不安だったので、例年通りの12月からキャリアセンターや先輩を頼りに情報収集を始めました。早いうちから合同説明会やインターンシップに参加することで様々な業界を研究し、自分に合うかどうかを考える時間が十分に取れたように思います。自分なりに意識したのは、「自分が仕事人生においてやりたいことは何か」、「それを実現できる場はどこか」をいつも考えながら企業とのマッチングを図ったことです。また、その二点をおさえることで、面接でも企業にしっかりと自分の意志や熱意を「志望動機」として伝えることが出来ました。

就職活動は、やればやるほど沢山の企業や様々な出身地の就活生と出会えます。特に、説明会や選考で会う学生は自分と同じ業界を志望しているはずなので、ぜひ積極的に会話をしましょう。情報交換が大切なのはもちろんですが、気持ちを共有してお互い励まし合える仲間が居るのはとても心強いことです。

活動中は、体力面でも精神面でも疲れる場面が誰しもあると思います。何もしない日を作ったりキャリアセンターで慰めてもらったり、何でも良いので自分を元気づけながら気分をメリハリをつけて頑張らしましょう!



キヤノン株式会社内定

経済学科4年 土肥 瑞希
(徳島県立城内高等学校出身)

大手メーカーの内定を目指し、就職活動を行いました。3年夏からインターンシップに何社も応募し、キャリアセンター主催のイベントにも主体的に参加するなど、早期から就職活動を行っているつもりでした。しかし40社近く企業を受けたにも関わらず落とされ続け、苦しかったです。そんな時支えてくれたのが、東京のシェアハウスで共に過ごす就活生仲間でした。約4ヶ月間、意識の高い学生と暮らすことでモチベーションを維持することができ、面接練習なども熱心に付き合ってもらいました。この環境があったからこそ内定を頂くことが出来たと思っていますし、人との関わりが就職活動では重要になると考えます。1人で就職活動を行おうとせず、友人、大学の先生や職員の方、企業の方、頼れる人には相談することをおすすめします。

また就職活動を行う上で、幅広く業界・企業を見てほしいと思います。本当に行きたい企業ならば説明会参加や社員訪問を頻繁に行ってください。それが内定に繋がるとは言えませんが、就職活動だけでなく社会を知るという意味においてもいい影響を与えてくれると思います。

辛いことも多々ある就職活動ですが、後悔だけはしないよう精一杯挑んでください。応援しています。



住友電装株式会社内定

国際商学科4年 中静 崇
(岡山県立岡山大安寺高等学校出身)

就職活動について皆さんはどういったイメージを持っているでしょうか?中には、「やってみよう」と思っている人もいるかもしれませんが、ほとんどの人は、大変そう・苦しいことが多そうと、不安に感じていることと思います。実際にも、真剣にやればやるほど、苦しい思いをすることになるかもしれません。

しかし、そんな就職活動でも悪いことばかりではありません。それは、『自分を知る良い機会』になるからです。「自分はどんな人間なのか?」「どんなことを考えて生きてきたのか?」「得意なこと・人とは違う点は?」などを再認識することができます。

私の場合も、「私ってどんな人?集団の中ではどんな役回りであると思う?」など多くの友人に質問し、他者から見た自分というものを知る機会となりました。また、ほんとうに自分を満足させるものは何か、何をする時が無理をしているかを見つめなおしたことは、会社選びの要素となりました。

自分を知ることは、就職活動だけでなく、これからの人生においても大切なことだと思います。自分探しの旅だと思って、前向きに就職活動に取り組んでもらえたらと思います。目先の小さな壁にとらわれて、小手先の方法でやり過ごすのではなく、しっかりと自分と向き合っ、納得のいく就職活動になることを心より祈っています。



インターンシップ

変わるインターンシップ

准教授 橋 誠
(キャリア委員会副委員長)

2016年卒業予定者の就職活動スケジュールが後ろ倒しとなり、広報活動が3月1日から、選考活動が8月1日から行われるようになりました。就職活動が短期決戦になったことに伴い、インターンシップを利用して会社を知ってもらおうとする企業も増えました。また、これまで夏休みに集中して実施されてきたインターンシップが秋や冬にも実施されるようになり、その内容も多様化しています。

本学でも、大学が主催する学内インターンシップだけではなく、学生自らが企業のインターンシップに応募して参加する学外インターンシップにも数多くの学生が参加するようになり、貴重な就業体験をしています。国内にとどまらず、海外でのインターンシップも大学主催で積極的に推進しており、今年は中国(青島)へ7名、シンガポールへ10名の学生を派遣しました。その他、韓国(釜山)でも例年インターンシップを行っていますが、今年はMERSの流行に対する懸念から派遣を見合わせました。

本学キャリアセンターではこのように変わり続ける就職活動に対応し、学生が希望する企業に就職できるよう支援していきたいと考えています。



(インターンシップの様子(下関市港湾局))

西中国信用金庫

経済学科3年 田中 翔也
(下関市立下関商業高等学校出身)

私は西中国信用金庫のインターンシップに5日間参加しました。私は商業高校出身で、高校生の頃から金融業界に興味があり、金融業界ではどのような業務を行っているのか、また、簿記などの専門科目が社会でどのように活用されているのか、実際に見てみたいと思いインターンシップに参加しました。

5日間の中で、西中国信用金庫の成り立ちや内部構成などを詳しく知ることができました。さらに、営業店での業務体験をさせていただき、金融機関の業務を拝見・体験することができました。私は、以前までは金融機関は窓口業務のイメージしがなく、お客様の視点でしか見ることはありませんでしたが、営業店業務体験で窓口業務以外の業務を体験することができ、学生生活では味わうことのできない貴重な経験をする事ができました。

インターンシップに参加し、私は社会人として働くにはまだまだ未熟者だと感じました。やはり学生と社会人では様々な点で大きく異なり、責任の大きさも違い、主体的に動き、誰とでもコミュニケーションをしっかりとれる「社会で必要とされる人材」を目指したいと思いました。これから就職活動までの残り少ない学生生活では、コミュニケーション能力を高めるとともに、適切な敬語の使い方を学ぶという目標もできました。

最後に、金融機関で働くというこ



とは大変でたくさんの困難があると思いますが、お金を取り扱うだけにやりがいのある仕事だと思いました。これからは以前のイメージとは違った視点で金融業界を見ることができると思います。今回のインターンシップで感じたこと、学んだことが無駄にならないように、今後の学生生活・就職活動に役立てていきたいと思っています。

株式会社レオパレス21

経済学科2年 篠原 大空
(栃木県立宇都宮北高等学校出身)

私は株式会社レオパレス21のインターンシップに参加しました。私がインターンシップに参加した目的は、この期間にビジネスパーソンとして、どのようなスキルと能力が必要なのかをしっかりと把握し、自分に足りない要素を見つけたいというものでした。大学の授業だけではわからないことが存在し、実際に肌で感じて目で見ないと本当に必要なことを見えてこないのではないかと感じていただけに、今回の経験は非常にかけがえのないものとなりました。

レオパレス21は不動産会社ということで、賃貸事業のみというイメージがありました。しかし、シルバー事業やホテル・リゾート事業を幅広く手がけていました。しかし、事業は違えど、共通することはあり、店舗では「挨拶」の重要性を何度も説明していただきました。本当に基本的な内容ですが、挨拶を疎かにしてはお客様がついてこないということを変えて認識しました。店長をはじめとした「元気」をモットーにした雰囲気は、今後自分が働く上で理想の職場環境です。2年生のうちからインターンシップに参加できてよかったです。就職活動を始める上で、大きなスタートダッシュが切れたと確信しています。



電通シンガポール

国際商学科4年 松村 遥
(サビエル高等学校出身)

私は、広告業界でのインターンシップを通して、依頼・受注から広告出稿までの全体像を知る、海外で働くというキャリアプランを学ぶ、社会人から自分を評価してもらうことを目標としていました。

インターンシップを通して、1つの広告に電通だけでなく他の会社も様々な形で関わっていることを知りました。電通では特に各部署同士の壁がなく、積極的に意見交換が行われていたのはとても興味深かったと同時に、毎週の会議で売り上げトップには表彰があり、実力主義な一面も感じ取ることができました。

オフィスでは他の部署の人のほか、電通以外の会社の方々に話を伺うことで、海外で働くことや将来のキャリアプランについて様々な角度から意見を聞くことができました。

今回のインターンシップでは、日頃から物事を観察・分析する力、自分の意見と理由を説明する力が必要だと感じました。前者は自分の知識につながり、企画を作ったときの説得力に、後者は常に自分の頭で考えることで、回りの情報に左右されず判断する力をつけることにつながります。

今回の貴重な経験を通して今後の自分の将来に活かしていきたいと思っています。



国際交流

留 学

視野を広げることができたトルコ留学

経済学科4年 アコスタ ハビエル
(岡山県立岡山大安寺高等学校出身)

2014年9月から2015年5月までトルコのボアジチ大学に留学しました。トルコへ留学する前は、うまくやっていると不安でした。しかし、トルコでの生活が始まるとその不安は払拭されました。確かに、身近な場所でデモが頻繁に起こることはありましたが、大学周辺はとても穏やかで安全面に関しては何の心配もありませんでした。また、トルコ人は親切な人が多く、大学内だけでなく旅先でも親切に接してくれました。

ボアジチ大学での授業は、大変質が高く、教授陣は欧米の有名大学で教鞭をとられていた人ばかりで、皆流暢な英語を話し、とても刺激的な授業でした。ただ、課される課題の量は膨大で、平日はいつも夜中まで勉強をしたり、友人と泊まり込みで議論をしたり、レポートを書いたりもしました。

トルコでの生活は日本での生活と180度違います。海外で一度も生活したことのない人は良い意味でも悪い意味でもカルチャーショックを経験すると思います。トルコ留学される際には、イスタンブールの街を歩き街中に響き渡るアザーンを聞きながら、チャイを飲み、夕焼けに映し出される尖塔を眺めたり、時には水煙草を吹かし、ハمامに行くなど、トルコならではの過ごし方を楽しんでください。



人として成長した留学

国際商学科3年 青木 裕也
(岡山県立岡山一宮高等学校出身)

2014年8月から約1年間、カリフォルニアのピッツバーグにあるロス・メダノス・カレッジに派遣留学生として行かせていただきました。私は初めから留学に対して乗り気だった訳ではなく、むしろ消極的でした。母親に勧められ、入試以来目標を失くしたまま漫然と大学生活を送るそれまでの自分を変えるきっかけにでもなれればと思う程度でした。

しかし、渡米して1週間で自分の考えは一変しました。毎日が様々な刺激に満ち溢れた生活に、学生としての本分を思い出させられました。昔から好きだった英語を日常生活や勉強の場で存分に使うことができる環境を得られたことが何にも代えがたい喜び



でした。自分の限界に挑戦するために、より難易度の高い授業を履修したことで何度も挫折を経験しましたが、すべて自分の糧になりました。もちろん勉強だけではなく、休暇を利用して弟のいるカナダのバンクーバーに旅行したり、ハワイに行ったりと海外生活を満喫することもできました。

この留学生活を通じて、私が自分の成長を最も感じられたのは人としての『許容力』です。異文化圏の人と母国語でない言語で話す中で、違いを受け入れて楽しむことのできる余裕を手に入れることができました。月並みですが留学で得られるものは数え切れません。新しいものに触れることにぜひ積極的になってみてください。

旅行から始める中国語

国際商学科3年 村上 朱音
(福岡県立筑紫中央高等学校出身)

私は中国・北京大学に2014年9月から1年間留学しました。中国の面積は日本の約25倍あり、様々な民族がいるため、旅行することでより中国の文化などを知ることができると思い、留学前からできるだけ多く中国各地を旅行したいという目標がありました。そして、留学中に北はハルビン市で氷点下30度の世界を体験したり、南はベトナムの近くにある海南島・三亜で南国気分を味わったりすることができました。北京から離れたところへ行く時には寝台列車を利用したこともあり。鉄道に乗車中、中国人はとてもフレンドリーで、「中学生の時に日本語を習ったことがある」や「テレサ・テンが好きで日本語の歌も聞いていた」などと話してくれて驚きでした。最初は中国語で思うように会話できませんでしたが、中国人と中国語で会話することで日本での授業とは一味違う勉強ができました。

この中国での1年間の留学で目標を達成し、更に中国への理解を深めることができました。先入観に縛られず、まず自分で経験することが大切だと感じる事ができ、とても充実した1年間でした。大学生活を豊かにするために、中国で貴重な体験をしてみたいかでしょうか？



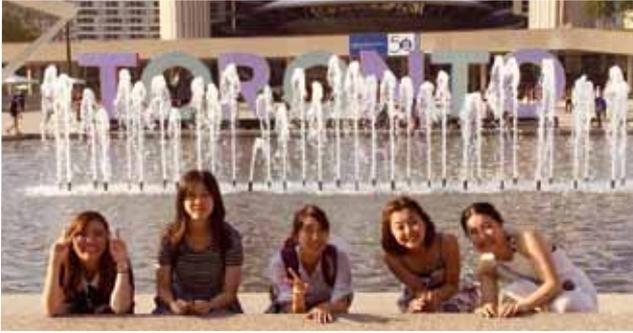
外国研修

スーセントマリーでの4週間 中林 あげは
国際商学科2年
(下関市立下関商業高等学校出身)

約1ヶ月をカナダで過ごした日々の中で、自分で見て触って感じたこと全て新鮮なものでした。まず、大学の授業は日本と比べて自分の意見を述べる機会が多くあり、学生と教師の距離が近く、刺激的で充実した授業内容でした。

次に、ホームステイでは実際の生活のなかで文化の違いを体験できました。私は、50代の夫婦の家にお世話になり、心地よい時間を過ごさせてもらいました。毎日美味しいご飯をたくさん食べさせてもらい、夕飯後に映画鑑賞をしたり、裏庭で先生や友達を招待してバーベキューをしたり、何気ない日々が一番の思い出です。優しくて面白い二人のおかげで初めてだらけ日々を、毎日楽しく笑って過ごせました。

これから人生を歩んでいく際に、このかけがえのない経験を活かしていきたいと思います。



中国への短期留学を通じて

国際商学科2年 井上 仙子
(福岡県立小倉高等学校出身)

私は外国研修で青島大学に約2週間留学しました。青島は想像していた中国とは異なり、とても都会的なヨーロッパ風の建物が残るきれいな街で、食べ物もおいしく、人もとても親切なところでした。大学は中国語を学ぶために世界から多くの人が留学していました。

授業がないときは、日本語学科の学生と一緒に、パンダを見に行ったり、値段の交渉をしながらの買い物や軍事演習の見学、観光地巡りなど、たくさんの思い出を作りました。もちろん、中国語で会話をする際になかなか伝わらなかったり、聞き取れなかったりと苦労することもありました。

今回の研修では日本で中国語を勉強するだけでは得られなかったことをたくさん経験しました。この経験を糧にし、中国語を勉強するのはもちろんのこと、大学で多くの知識を身につけたいと思います。



困難と驚きと楽しさでいっぱいだった毎日

経済学科1年 中嶋 菜子
(山口県立豊浦高等学校出身)

8月9日(日)～22日(土)の約2週間、韓国釜山広域市の東義大学校での語学研修に参加しました。私は韓国の音楽や料理などに興味をもっており、実際に韓国に行ってみようと思い参加しましたが、朝鮮語を学び始めたばかりでしたので、やはり最初は言葉が通じず、聞き取ることも出来ず大変でした。

しかし、現地の先生方やチューターが丁寧に朝鮮語を教えてくれたおかげで、以前より会話ができるようになり、2週間でいい思い出がたくさんできました。テコンドー体験、野球観戦、ショッピング、観光など多くのイベントに参加し、自分の語学能力を試す機会にもなりましたし、食事の作法や交



通手段などの日本との違いを発見していく日々はとても楽しかったです。語学能力を向上させることができるうえに異文化体験を2週間も経験できるこの研修に参加できて本当によかったです。



留学生との交流

食の文化交流「世界の厨房から」

国際交流会ともだち部長 経済学科3年 坂田 大樹
(下関市立下関商業高等学校出身)

7月10日(金)に国際交流会ともだち主催の「世界の厨房から」を行いました。今年是中国、韓国、タイ、トルコ、アイスランド、日本の6ヶ国の料理を用意しました。サークル部員と留学生が国ごとにチームに分かれ、試食会を行い、当日に向けて準備をしてきました。当日はたくさんの学生や地域の方々、教職員の皆様に来ていただいたおかげで、各国100人分用意していた料理はあっという間に完食となりました。また、最後には日本舞踊サークルさくら会の皆さんに日本舞踊も披露していただきました。

「世界の厨房から」は、各国の文化を知るために重要である「食」をテーマにしたイベントです。私たちもこのような機会を大事にし、国際交流が盛んになるように努めていきたいと思っています。



カナヅチ留学生水泳部に入る

経済学科1年 湯 力寧
(中国江蘇省出身)

もともと水泳には興味があったのですが、カナヅチの私が一念発起！泳げるようになりたいと思い、水泳部に入りました。「カナヅチ」、しかも「留学生」が水泳部に入るなんて、実に珍しいと言われます。

水泳部は人数が少ないけど、先輩たちはみんな優しく、いつも私の面倒を見てくれます。わざわざ1コースを譲ってもらって、先輩から水泳を教わっている私は本当に幸せです。部活に参加するのは、日本人の友達を作るいいチャンスでもあります。水泳部のみんなと一緒に外で食事をしたり、カラオケに行ったりするのも楽しいです。毎年、いくつかの大会もあります。行ったことのない都市で合宿し、速い人の泳ぎを見るのもいい勉強になっています。



下関市立大学 News & Topics

未来大学について

教授 難波 利光
(地域共創センター長)

未来大学では、国の地方創生事業の取り組みを地域の方々により理解を深めて頂くための内容を充実させました。地域創生学科では、市内の事業を基に、地域の人材をいかに創出し、地域経済に活気を持たせることができるのかを一緒に考えました。企業と起業学科では、下関経済を今後支えていく企業を創るためには、どのような取り組みが必要か考えました。まちづくり・ひとづくり学科では、身近な地域のまちづくりを他市の先進事業例や専門的な視点から学びました。

これらの講義を通し、地方分権社会の充実を図るために、本当に地域を支える人材を育成することで下関の経済や生活を安定的に支えることができる社会の形成ができればと思っております。また、若い学生や生徒の教育や雇用の場としても魅力的な地域になるためにも、下関のもてるソーシャルキャピタルを皆で発見し育てていくことを受講生には期待しております。



下関ユースカレッジ2015

教授 中嶋 健
(学部長)

「下関の中高生に郷土のことをよく知ってもらおう」という趣旨で始まって4年目になる今回の参加者は、中学生2名を含む52名であった。1日目(8月18日)は、中尾友昭市長の「下関を知っていますか～下関を再発見しましょう」、西戸准教授の「下関の経済を学ぼう～有価証券って何だろう?」、道盛教授の「下関の経済を学ぼう～下関の金融事情」と題する講義が行われた。2日目(8月19日)は、41名が、日本銀行下関支店、下関市議会、九州地方整備局下関港湾空港技術調査事務所を訪問し、現地職員のレクチャーを聞き、施設を見学をした。3日目(8月20日)は、中嶋の「下関の中高生に知ってもらいたいスポーツの魅力とスポーツブランドの話」、下関観光交流部の武内芳博政策調整官の「海響マラソンのここが凄い～スポーツイベントでまちを元気に」の講義があり、最後に6名の学生広報委員のリードによるグループ座談会で大いに盛り上がり、全課程が終了した。



名誉教授の称号を授与

本年3月31日付で退職された太田周二郎氏及び平岡昭利氏に、名誉教授の称号が授与されました。

長きに渡り本学の教育や運営にご尽力いただき誠に有難うございました。

春学期卒業式

9月30日(水)、本館II棟5階大会議室において、平成27年度春学期卒業証書・学位記授与式が挙行されました。今年度は、経済学科16名、国際商学科7名、公共マネジメント学科1名、大学院経済学研究科1名の合計25名が本学を巣立っていきました。学長は告辞の中で、「自らの特性を把握し、この特性を高めるため、いろいろな経験をし、社会に出ても勉強を続けていってください。学ぶことがマイナスになることは、決してありません。チャレンジ精神をもって、突き進んでいってほしい。」と述べられました。卒業生の1人は、「3月に友達と一緒に卒業できなかったのは残念ですが、親に迷惑をかけた分、社会で頑張っていきたい。」と述べていました。本学は、全国各地あるいは世界で活躍する皆さんを、下関から応援しています。



自著を語る

連載企画

『国家とグローバル金融』を上梓して

准教授 山川 俊和

このたび、エリック・ヘライナー『国家とグローバル金融』(矢野修一・柴田茂紀・参川城徳・山川俊和訳、法政大学出版局、2015年9月)を上梓しました。本書は、自動的に進むと思われがち「金融グローバル化」の推進力学と政治的意思決定に注目した重要な研究との評価を受けており、また、国際政治経済学の基本書のひとつに数えられています。本書で問題視された金融のグローバル化とその危機は、ますます深刻になっています。初版から20年以上経過していますが、本書は現代の状況をとらえる理論枠組みを有しており、その議論は非常にアクチュアルなものです。

現代の政治経済に関心を持つ一人でも多くの方にご一読いただけて幸いです。ちなみに、記者はみな学部ゼミの教員とゼミ生の関係であり、学部時代の関係性が学術的な成果に結実しました。このことは、地方公立大学としては小さな快挙であり、大学教員となった私にとっても大きな励みとなっています。



第54回下関市立大学大学祭(馬関祭)～新たな試み～

第54回大学祭実行委員会委員長 経済学科3年 野田 康巨
(専修大学玉名高等学校出身)

今年の大学祭は10月10日から10月12日の期間で開催しました。3日間とも天候に恵まれ無事に終えることができました。今回は大学内だけでなく、地域にも明るさを届けていこうという思いから「Lights」というテーマを掲げました。実行委員会メンバー一人ひとりがその思いを持ち、運営にあたったおかげで、にぎやかな大学祭であったように感じます。新企画であるキャンドルナイトは、屋外階段に敷き詰めたキャンドルが期待以上にきれいに輝き、多くの人に観賞していただくことができました。

また、今年度は、これまで大学祭最終日に体育館で行っていた有料お笑いライブを、無料として野外ステージで行いました。初の試みということもあり、どのようにするか試行錯誤しながら行わなければならない、集客は出来るのかなど当日まで不安が残っていましたが、実際には予想以上に多くの人が集まっており、皆様楽しんで頂きました。

最後になりましたが、皆様のご協力のおかげで毎年の大学祭が開催できていると、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



アルゴマ大学(カナダ)への派遣留学が可能になりました!

准教授 クリステン サリバン

今年の6月にカナダ(オンタリオ州ソーセントマリー市)にあるアルゴマ大学と派遣留学の協定を締結しました。カナダで長期留学がしたいという多くの学生の声を受けて、本学は長年、カナダの派遣先を探してきました。交渉の過程で、カナダの大学及び大学生の独特な事情から、いわゆる「交換留学」が難しいことが判明しました。今回は本学からアルゴマ大学に学生を一方的に派遣するという形の協定になりましたが、いつか近い将来にアルゴマ大学の学生を本学で歓迎できる日が来ることを願っております。早速、アルゴマ大学が今年度の外国研修(英語圏)の派遣先となり、15名の学生と1名の引率教員が1ヶ月の研修を終えたところです。10月1日からアルゴマ大学への派遣留学希望者の募集が始まりました。詳細に関しては、国際交流センターにお問い合わせになるか、国際交流センターのホームページをご覧ください。



メイデン

銘傳大學(台湾)との交換留学が始まります!

准教授 重田 美咲

銘傳大学(台湾)と協定を結びました!これにより、毎年、約3名の学生が下関市立大学から銘傳大学へ留学に行き、銘傳大学から下関市立大学へ留学に来ることになります。銘傳大学と下関市立大学との協定は今年結ばれたわけですが、この協定の起源は18年ほど前に遡ります。当時大学院生だった私(現・下関市立大学教員)と当時留学生だった王佑心さん(現・銘傳大学教員)との出会いです。私と王先生との出会いと友情がきっかけとなり、それに、両校の先生方、事務職員の方々の協力が加わり、今回の協定となりました。今後、留学に行く学生の皆さんには、私と王先生のように友情を育んでもらいたいと思います。そして、下関市立大学の学生と銘傳大学の学生の交流が、私と王先生が年を取って死んだ後も、長く、長く、続いていくことを祈っています。



私のゼミ

連載企画

現代資本主義の諸問題に関する多角的研究

国際商学科3年 與那嶺 武士
(沖縄県立浦添高等学校出身)

関野ゼミでは、現代資本主義分析をテーマに様々な問題について研究・議論しています。毎週、専門書を読み予習メモという文書を作成提出し、先生とのコメントのやりとりを介して自分の意見や疑問に思ったことを持ち込み、議論を行います。



国際商学科3年
與那嶺武士さん

例えばリーマンショックを議論した際は、サブプライムローンの構造を手掛かりにリーマンブラザーズ経営破綻までの経緯を分析し、倒産の原因や世界中に波及した影響を学びました。一見保険がいくつもかけられていて安全に見えるこのローンは、実際、債権の行方が不透明でありローンを組むにはあまりに危険なものでした。なぜ、このような複雑な構造をしたローンに加入する家計が多かったのか、また、このような他企業に責任転嫁するような債権の売買が当たり前のように行われていたのか私は疑問に思いました。その後、ローンの返済が困難な家庭が急増し、アメリカの大手保険会社が経営危機に陥り、リーマンブラザーズは倒産しました。ゼミではこのような現代社会の内容をテーマに予習し、議論し、先生とのコメントの交換で理解を深めていきます。



関野ゼミの様子

平成27年度 サークル春季大会成績

部活・サークル名	大会名	種目名	成績	選手名
男子バスケットボール	山口県学生バスケットボール春季大会	I部	5位	
男子バレーボール	中国大学バレーボールリーグ戦春季大会	チャレンジリーグ	ベスト8	
ハンドボール部	中四国学生ハンドボール選手権 春季リーグ戦	II部	4位	
フットサル部	全日本大学フットサル大会山口県大会		3位	
バドミントン部	中四国学生バドミントンリーグ戦	男子団体III部	4位	
		女子団体II部	3位	
	中国学生バドミントン選手権大会	女子ダブルスA級	2位	櫻山 希実子・石田 晴
		女子シングルス	ベスト4	櫻山 希実子
卓球部	中国学生卓球選手権春季大会	男子団体III部(II部昇格)	1位	
		女子団体III部	1位	
軟式野球部	西日本地区学生軟式野球春季リーグ戦	I部	3位	
硬式テニス部	北九州・下関地区大学体育大会(硬式テニス競技)	女子団体	優勝	
		女子シングルス	優勝	森桶 愛叶
		女子ダブルス	優勝	森桶 愛叶・他大学学生
		男子シングルス	準優勝	藤田 悠介
ソフトテニス部	中国学生ソフトテニス春季リーグ戦大会	男子団体III部(II部昇格)	1位	
陸上競技部	ほうほく北浦駅伝大会	総合	1位	
		個人	6区区間賞	山口 勝之
	北九州・下関地区大学体育大会(陸上競技)	男子総合	1位	
		女子総合	4位	
		男女総合	優勝	
水泳部	中国四国国立大学選手権水泳競技大会	女子自由形200M	3位	植木 奈那子
			優勝	織邊 麻友美
		女子個人	ベスト4	黒田 千恵
			ベスト8	菊地 志歩
剣道部	市内職域・地域対抗剣道選手権大会			黒田 千恵・川口 真弘・
				織邊 麻友美・菊地 志歩・
				渡邊凜太郎(男女混成チーム)
空手道部	北九州・下関地区大学体育大会(空手道競技)	男子組手個人	3位	村瀬 智大
		女子形個人	2位	疋田 梨緒

水泳部 全国大会出場

第62回全国国立大学選手権水泳競技大会
女子 自由形 50M、200M 出場
経済学科 3年 植木 奈那子



■行事記録(平成27年7月～10月)

- 7月 10日 世界の厨房から
- 23日 FDワークショップ
- 31日 春学期定期試験(～8月6日)
- 8月 8日 共同自主研究発表会
- オープンキャンパス(～9日)
- 9日 外国研修(朝鮮語)(～22日)
- 17日 外国研修(英語)(～9月12日)
- 18日 下関ユースカレッジ(～20日)
- 20日 春学期卒業論文提出日
- 9月 5日 大学院入試(一次募集)
- 7日 大学コンソーシアム関門共同授業(～11日)
- 9日 外国研修(中国語)(～24日)
- 11日 大学院入試合格発表
- 12日 保護者懇談会
- 24日 防災訓練
- 25日 秋学期履修登録開始
- 28日 秋学期授業開始
- 30日 春学期卒業式
- 10月 1日 第2回就職ガイダンス
- 4日 オープンキャンパス
- 10日 大学祭(～12日)
- 13日 クリーンキャンパスデー(全学休講)
- 31日 第8回鯨資料室シンポジウム

■今年度の入試スケジュール

【推薦入学・特別選抜・第3年次編入学】

- ◎試験日:平成27年11月21日(土)
- ◎出願期間:(推薦・特別)平成27年11月2日(月)～11月9日(月)
- (3年次編入学)平成27年10月22日(木)～10月29日(木)

【外国人留学生】

- ◎試験日:平成27年12月19日(土)
- ◎出願期間:平成27年11月26日(木)～12月4日(金)

【一般選抜(前期日程)】

- ◎試験日:平成28年2月25日(木)
- ◎出願期間:平成28年1月25日(月)～2月3日(水)

【一般選抜(公立大学中期日程)】

- ◎試験日:平成28年3月8日(火)
- ◎出願期間:平成28年1月25日(月)～2月3日(水)

《お知らせ》

一般選抜では、地方試験会場を多数設置しています。
前期日程では下関・大阪・広島・福岡、公立大学中期日程では下関・名古屋・大阪・高松・広島・福岡・鹿児島で受験することができます。
詳しくは、募集要項をご覧ください。

公立大学中期日程に「名古屋試験会場」を新設!

平成28(2016)年度一般選抜・中期日程において、東海①地区では初めてとなる名古屋試験会場を設置します。
【試験会場】ウイंकあいち(名古屋市中村区名駅4丁目4-38)
【アクセス】JR・地下鉄・名鉄・近鉄「名古屋駅」より徒歩5分
※詳細はHPをご覧ください。

